

<p><1 テーマ></p>	<p><3 成果指標と実績></p>											
<p>生徒の思考力・判断力・表現力を育て、主体的な学びを引き出す効果的な教育活動の実践 ～授業改善の推進・探究活動の充実等による生徒の学力向上を目指して～</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>初期値</th> <th>目標値</th> <th>実績（評価）</th> </tr> </thead> </table>				成果指標	初期値	目標値	実績（評価）				
成果指標	初期値	目標値	実績（評価）									
<p><2 取組方法></p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>①授業への取組 2年</td> <td>23.7%</td> <td>28.0%</td> <td>— (—)</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>30.3%</td> <td>35.0%</td> <td>— (—)</td> </tr> </tbody> </table>				①授業への取組 2年	23.7%	28.0%	— (—)	1年	30.3%	35.0%	— (—)
①授業への取組 2年	23.7%	28.0%	— (—)									
1年	30.3%	35.0%	— (—)									
<p>実施体制</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>①平日学習時間 2年</td> <td>0.92h</td> <td>1.3h</td> <td>— (—)</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>0.98h</td> <td>1.3h</td> <td>— (—)</td> </tr> </tbody> </table>				①平日学習時間 2年	0.92h	1.3h	— (—)	1年	0.98h	1.3h	— (—)
①平日学習時間 2年	0.92h	1.3h	— (—)									
1年	0.98h	1.3h	— (—)									
<p>○「アクティブ・ラーニング型授業」や総合的な学習の時間の「探究活動」の実践等のために、平成29年度から分掌横断的に設置した「総学・研修担当」を母体として「コアスクール推進委員会」を新たに組織。</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>①休日学習時間 2年</td> <td>1.55h</td> <td>2.0h</td> <td>— (—)</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>1.74h</td> <td>2.0h</td> <td>— (—)</td> </tr> </tbody> </table>				①休日学習時間 2年	1.55h	2.0h	— (—)	1年	1.74h	2.0h	— (—)
①休日学習時間 2年	1.55h	2.0h	— (—)									
1年	1.74h	2.0h	— (—)									
<p>生徒の学力向上</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>③授業で力がついた実感 2年</td> <td>2.6%</td> <td>8.0%</td> <td>— (—)</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>8.2%</td> <td>13.0%</td> <td>— (—)</td> </tr> </tbody> </table>				③授業で力がついた実感 2年	2.6%	8.0%	— (—)	1年	8.2%	13.0%	— (—)
③授業で力がついた実感 2年	2.6%	8.0%	— (—)									
1年	8.2%	13.0%	— (—)									
<p>○総合的な学習の時間における探究活動として、藤枝市と連携し、地域の課題発見、分析を行い、提言をすることにより、思考力・判断力・表現力などの育成を目指す（「ふじプロ」の実施）。</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>①国公立大学の受験者数</td> <td>49名</td> <td>55名</td> <td>— (—)</td> </tr> </tbody> </table>				①国公立大学の受験者数	49名	55名	— (—)				
①国公立大学の受験者数	49名	55名	— (—)									
<p>○進学予備校講師による「スタートアップセミナー」及び「集中講座」を実施し、受験勉強等のスキルなどを学ぶとともに、各種進路講演会等を開催し、進路意識の啓発を図り、生徒の学力向上を目指す。</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>②外部との連携による探究活動等への参加生徒数</td> <td>6名</td> <td>200名</td> <td>205 (A)</td> </tr> </tbody> </table>				②外部との連携による探究活動等への参加生徒数	6名	200名	205 (A)				
②外部との連携による探究活動等への参加生徒数	6名	200名	205 (A)									
<p>教員の指導力向上</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>③大学進学を目的とした補習等への参加生徒数</td> <td>174名</td> <td>185名</td> <td>— (—)</td> </tr> </tbody> </table>				③大学進学を目的とした補習等への参加生徒数	174名	185名	— (—)				
③大学進学を目的とした補習等への参加生徒数	174名	185名	— (—)									
<p>○「アクティブ・ラーニングを取り入れた授業公開強化月間」を設定し、全職員による授業実践、ユニットによる相互授業参観と授業評価会を実施する。</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>③国公立大学の合格者数</td> <td>26名</td> <td>26名</td> <td>— (—)</td> </tr> </tbody> </table>				③国公立大学の合格者数	26名	26名	— (—)				
③国公立大学の合格者数	26名	26名	— (—)									
<p>○「アクティブ・ラーニング型授業」や、本校が目指す総合的な学習の時間における「探究活動」について先進的な取組をしている県内外の高校を視察し、情報の収集及び共有を図る。</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>③自分で考えたり表現したりする機会が増えた実感 2年・1年</td> <td>60%</td> <td>70%</td> <td>— (—)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>65%</td> <td>70%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				③自分で考えたり表現したりする機会が増えた実感 2年・1年	60%	70%	— (—)		65%	70%	
③自分で考えたり表現したりする機会が増えた実感 2年・1年	60%	70%	— (—)									
	65%	70%										
<p>○全職員対象に、授業改善に資する外部講師による校内研修会を実施する。</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>③進路希望が明確になり、学習習慣がついてきた 2年・1年</td> <td>47%</td> <td>52%</td> <td>— (—)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>51%</td> <td>56%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				③進路希望が明確になり、学習習慣がついてきた 2年・1年	47%	52%	— (—)		51%	56%	
③進路希望が明確になり、学習習慣がついてきた 2年・1年	47%	52%	— (—)									
	51%	56%										
<p>○進学予備校主催の教員対象の授業力向上セミナーに5教科の教員が参加し、その内容を教科内で共有する。</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>③アクティブ・ラーニングを意識し、授業改善に取り組んだ教員の割合</td> <td>71.1%</td> <td>100%</td> <td>— (—)</td> </tr> </tbody> </table>				③アクティブ・ラーニングを意識し、授業改善に取り組んだ教員の割合	71.1%	100%	— (—)				
③アクティブ・ラーニングを意識し、授業改善に取り組んだ教員の割合	71.1%	100%	— (—)									
<p>高大接続改革への対応</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>③先進校視察・スキルアップ研修・セミナー等の内容を授業改善に役立てた教員の割合</td> <td>71.1%</td> <td>100%</td> <td>— (—)</td> </tr> </tbody> </table>				③先進校視察・スキルアップ研修・セミナー等の内容を授業改善に役立てた教員の割合	71.1%	100%	— (—)				
③先進校視察・スキルアップ研修・セミナー等の内容を授業改善に役立てた教員の割合	71.1%	100%	— (—)									
<p>○高大接続改革全般にわたる情報収集と共有、及びその対応等に関する検討を行う。</p>	<p>※ 実績（評価）については、「高校生の自発的学習状況等に関するアンケート調査」等、今後、調査・検証した上で記入し、再提出する。</p>											
<p>○学習支援クラウドサービス「Classi」による、本校生徒の活動実績の蓄積方法に関する制度設計とその実践や、生徒の諸活動への取組推進に資する制度設計と実践に取り組む。</p>												

<4 特徴的な取組>

生徒の学力向上

探究活動「ふじプロ」

- ①「藤枝市の若者の流出を防ぐために」をテーマに、そのための施策提言に向け、「医療・福祉」、「教育・文化」、「産業」などの7分野に分かれ、グループワーク等による、調査・研究を開始した。
- ②藤枝市企画政策課の担当者から、藤枝市が抱える課題「若者の流出」等について、「医療・教育」、「スポーツ・産業」、「国際・文化」の3つの側面から説明していただき、生徒の課題意識等の高揚を図った。



夏休みスタートアップセミナー

7月24日(火)及び8月27日(月)、藤枝商工会議所にて、受験勉強に対する意識付けと学習方法の習得のため、大手予備校講師によるスタートアップセミナーを開催した。対象は、本校3年生特進クラスの生徒及び希望者、約100名。1講座90分と長時間にも関わらず、生徒たちは、講師の熱心な講義に真剣に聞き入っていた。



教員の指導力向上

授業力向上セミナー教科研修会

夏季休業中に、国・地公・数・理・英の教員一名ずつが首都圏で開催された予備校主催の「夏期教育研究セミナー」に参加した。9月にかけて、教科ごと、事後報告及び研修会を開き、内容の共有を図った。



校内研修 ～「話す」トレーニング～

10月17日(水)、NHK放送研修センターの花田和明氏による校内研修会を開催した。聞き手に、わかりやすく、要点をきちんと伝える話し方等、教員として必要不可欠なスキル等を学ぶことができた。



アクティブ・ラーニングの実践と相互授業参観

1学期は、教科に関係なく4人組のユニットを編成し、相互に授業を参観した。他教科の授業を参観することで、新たな目線で授業分析ができ、その後の教科会での活発な意見交換につながった。2学期は、同じ教科内で3～4人のユニットを編成し、一人の教員の授業を複数回参観し、授業がどのように改善されたか等を観察することで、互いの指導力向上を目指す。



<5 成果と今後の方向性>

探究活動「ふじプロ」については、現在、各自の課題を共有するためのグループワークを進めている。今後「藤枝市の魅力」についてまとめる中で、「若者の流出防止」に向けた施策提言を目指す。具体的には、1学年末に「グループ発表(ポスターセッション)」、2学年末に「提言書」による藤枝市への提言を目指す。

夏休みのスタートアップセミナーは、生徒にとって受験勉強の意識付けとなる大変有益なものであった。冬休みには、大手進学予備校の講師による生徒向け集中講座も計画しており、授業改善に向けた教員の指導力向上と合わせ、生徒の学力向上のため、本学力向上コアスクール事業を有効に活用していきたい。

<p><1 テーマ></p> <p>新たな社会を創る人を育てる ～主体的に挑戦し続ける 新たな学びの創造～</p>	<p><3 成果指標と実績></p>			
<p><2 取組方法></p>	<p>成果指標</p>	<p>初期値</p>	<p>目標値</p>	<p>実績(評価)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・土曜補講、放課後補講、夏期補講、2月補講 ・志榛地区合同補講(職員による見学含む。) ・イングリッシュキャンプ(夏・冬) ・しまこう地元発見講座 ・アクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善 ・教員研修会 ・各種セミナー報告会 ・しまこう学問探究ナビ ・入試改革に向けた学校改革と保護者進路講座 ・アンケート調査等による連関図の検証 	<p>①授業への取組</p>	<p>2年 28.7% 1年 29.2%</p>	<p>35.0% 35.0%</p>	<p>20.1% 31.7%</p>
	<p>①平日学習時間</p>	<p>2年 1.36h 1年 1.32h</p>	<p>2.00h 1.45h</p>	<p>1.60h 1.68h</p>
	<p>①休日学習時間</p>	<p>2年 1.79h 1年 1.78h</p>	<p>2.25h 2.00h</p>	<p>2.42h 2.58h</p>
	<p>③授業で力が ついた実感</p>	<p>2年 9.7% 1年 3.1%</p>	<p>10.0% 7.0%</p>	<p>5.0% 7.9%</p>
	<p>②国公立大学の受験者数</p>	<p>107人</p>	<p>125人</p>	
	<p>②探究活動への生徒参加数</p>	<p>394人</p>	<p>405人</p>	
	<p>②補習等への生徒参加数(延)</p>	<p>813人</p>	<p>820人</p>	
	<p>③国公立大学の合格者数</p>	<p>43人</p>	<p>50人</p>	
	<p>②センター5-7形成率</p>	<p>56.7%</p>	<p>60%</p>	
	<p>②個別指導受講者数</p>	<p>58人</p>	<p>70人</p>	
	<p>③GTEC ST グレード3以上</p>	<p>11人</p>	<p>35人</p>	
	<p>③英語でプレゼンできる生徒</p>	<p>91人</p>	<p>100人</p>	
	<p>②各種補講等参加者数</p>	<p>19人</p>	<p>22人</p>	

<4 特徴的な取組>



志榛地区合同補講で他校生と真剣勝負！
参加者126人（島田高63、榛原高21、藤枝
東高18、焼津中央高17、川根高5、金谷高2）



英語でプレゼン！
English Summer Camp！



大学の講義に触れる機会を提供
全国17大学から講師を招く学問探究ナビ



保護者進路講座

土曜日の補講に合わせ開講

大学入試のしくみや進路情報を保護者に提供

	内容	講座日
第1回	進学基礎用語	5/12,5/19
第2回	学部・学科	6/9,6/16
第3回	大学入試の流れ	6/30,7/21
第4回	大学進学をとりまく環境	9/29,10/13
第5回	模試と偏差値	11/10,11/17



教員研修会

河合塾から講師を招き、小論文指導のポイントを学ぶ



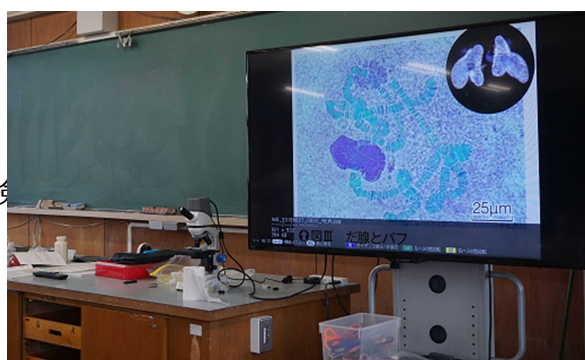
アクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善
教科横断的に研修



<5 成果と今後の方向性>

コアスクールならではの特徴的な取組に加えて、地道な校内研修にも積極的な取組が見られるようになり、指定1年目は順調に推移している。

進学指導の正念場を迎え、取組の成果を客観的に検証する必要がある。PDCAサイクルをきちんと機能させて次年度の充実を期す。



<1 テーマ>	<3 成果指標と実績>																																																															
<p>地域と連携した教育活動を通して、「地域についての認識を深め、グローバルな視野を併せ持つ生徒の育成」と、「自ら課題を設定し、他者と協働してよりよい解決に向け主体的に判断し、表現する力を身に付ける生徒の育成」を図る。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>初期値</th> <th>目標値</th> <th>実績（評価）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="770 376 1062 443">①授業への取組 2年 1年</td> <td data-bbox="1062 376 1190 443">31.5 28.1</td> <td data-bbox="1190 376 1302 443">35.0 30.0</td> <td data-bbox="1302 376 1474 443">35.6 () ()</td> </tr> <tr> <td data-bbox="770 450 1062 517">①平日学習時間 2年 1年</td> <td data-bbox="1062 450 1190 517">1.4 1.6</td> <td data-bbox="1190 450 1302 517">2.0 1.8</td> <td data-bbox="1302 450 1474 517">1.3 () ()</td> </tr> <tr> <td data-bbox="770 524 1062 591">①休日学習時間 2年 1年</td> <td data-bbox="1062 524 1190 591">2.1 2.1</td> <td data-bbox="1190 524 1302 591">2.5 2.3</td> <td data-bbox="1302 524 1474 591">2.5 () ()</td> </tr> <tr> <td data-bbox="770 598 1062 665">③授業で力が ついた実感 2年 1年</td> <td data-bbox="1062 598 1190 665">4.2 6.7</td> <td data-bbox="1190 598 1302 665">10.0 10.0</td> <td data-bbox="1302 598 1474 665">5.9 () ()</td> </tr> <tr> <td data-bbox="151 524 762 555"><2 取組方法></td> <td colspan="4" data-bbox="770 672 1474 739">①国公立大学の受験者数</td> </tr> <tr> <td data-bbox="151 562 762 665"> <p>A Fプロジェクト会議（Achieving Futures Project）を設置し、榛原高校のコアスクール（学力向上）事業の企画・運営を行う。</p> </td> <td colspan="4" data-bbox="770 745 1474 813">②外部との連携による探究活動への参加生徒数</td> </tr> <tr> <td data-bbox="151 669 762 920"> <p>「総合的な学習の時間」（榛高タイム）に地域の外部人材を活用し、対話を重視した活動を協働的に行いながら、地域の課題解決に向けての探究活動を行っている。具体的には、ファシリテーション研修、企業人講話、牧之原市長出前授業、金融経済教室、日経STOCKリーグへの参加、成果報告会等を実施し、学力の向上を図る。</p> </td> <td colspan="4" data-bbox="770 819 1474 887">②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数</td> </tr> <tr> <td data-bbox="151 927 762 1106"> <p>地域リーダー育成プロジェクト（CLIP）、実社会プログラムでは、希望者を対象に課外活動として、地域との連携事業や企業訪問、海外研修を実施し、理数科はイングリッシュ・キャンプを実施する。</p> </td> <td colspan="4" data-bbox="770 893 1474 960">③国公立大学の合格者数</td> </tr> <tr> <td data-bbox="151 1113 762 1292"> <p>教員の指導力向上については、ICT機器の効果的な活用方法について研修を行い、授業改善を図る。また、「社会に開かれた教育課程」の実現過程に携わることで、深い学びに繋がる指導方法を身に付けていく。</p> </td> <td colspan="4" data-bbox="770 967 1474 1034">①模擬請願者数</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4" data-bbox="770 1041 1474 1108">②イングリッシュ・キャンプ参加者数</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4" data-bbox="770 1115 1474 1182">③1月模試国数英全国平均偏差値</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4" data-bbox="770 1189 1474 1256">③私立大学 MARCHの合格者数</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	初期値	目標値	実績（評価）	①授業への取組 2年 1年	31.5 28.1	35.0 30.0	35.6 () ()	①平日学習時間 2年 1年	1.4 1.6	2.0 1.8	1.3 () ()	①休日学習時間 2年 1年	2.1 2.1	2.5 2.3	2.5 () ()	③授業で力が ついた実感 2年 1年	4.2 6.7	10.0 10.0	5.9 () ()	<2 取組方法>	①国公立大学の受験者数				<p>A Fプロジェクト会議（Achieving Futures Project）を設置し、榛原高校のコアスクール（学力向上）事業の企画・運営を行う。</p>	②外部との連携による探究活動への参加生徒数				<p>「総合的な学習の時間」（榛高タイム）に地域の外部人材を活用し、対話を重視した活動を協働的に行いながら、地域の課題解決に向けての探究活動を行っている。具体的には、ファシリテーション研修、企業人講話、牧之原市長出前授業、金融経済教室、日経STOCKリーグへの参加、成果報告会等を実施し、学力の向上を図る。</p>	②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数				<p>地域リーダー育成プロジェクト（CLIP）、実社会プログラムでは、希望者を対象に課外活動として、地域との連携事業や企業訪問、海外研修を実施し、理数科はイングリッシュ・キャンプを実施する。</p>	③国公立大学の合格者数				<p>教員の指導力向上については、ICT機器の効果的な活用方法について研修を行い、授業改善を図る。また、「社会に開かれた教育課程」の実現過程に携わることで、深い学びに繋がる指導方法を身に付けていく。</p>	①模擬請願者数					②イングリッシュ・キャンプ参加者数					③1月模試国数英全国平均偏差値					③私立大学 MARCHの合格者数			
成果指標	初期値	目標値	実績（評価）																																																													
①授業への取組 2年 1年	31.5 28.1	35.0 30.0	35.6 () ()																																																													
①平日学習時間 2年 1年	1.4 1.6	2.0 1.8	1.3 () ()																																																													
①休日学習時間 2年 1年	2.1 2.1	2.5 2.3	2.5 () ()																																																													
③授業で力が ついた実感 2年 1年	4.2 6.7	10.0 10.0	5.9 () ()																																																													
<2 取組方法>	①国公立大学の受験者数																																																															
<p>A Fプロジェクト会議（Achieving Futures Project）を設置し、榛原高校のコアスクール（学力向上）事業の企画・運営を行う。</p>	②外部との連携による探究活動への参加生徒数																																																															
<p>「総合的な学習の時間」（榛高タイム）に地域の外部人材を活用し、対話を重視した活動を協働的に行いながら、地域の課題解決に向けての探究活動を行っている。具体的には、ファシリテーション研修、企業人講話、牧之原市長出前授業、金融経済教室、日経STOCKリーグへの参加、成果報告会等を実施し、学力の向上を図る。</p>	②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数																																																															
<p>地域リーダー育成プロジェクト（CLIP）、実社会プログラムでは、希望者を対象に課外活動として、地域との連携事業や企業訪問、海外研修を実施し、理数科はイングリッシュ・キャンプを実施する。</p>	③国公立大学の合格者数																																																															
<p>教員の指導力向上については、ICT機器の効果的な活用方法について研修を行い、授業改善を図る。また、「社会に開かれた教育課程」の実現過程に携わることで、深い学びに繋がる指導方法を身に付けていく。</p>	①模擬請願者数																																																															
	②イングリッシュ・キャンプ参加者数																																																															
	③1月模試国数英全国平均偏差値																																																															
	③私立大学 MARCHの合格者数																																																															

<4 特徴的な取組>

榛原タイム 企業人講話 7月13日（金） 午前・午後の二部構成で実施



地元企業、牧之原市役所、NPO法人など、各業種から12人の講師を招き講話を聞いた。講話の内容は、所属及び仕事内容の紹介、仕事の魅力、高校生へのアドバイスなど。市民ファシリテーターを交えて振り返りをワークショップ形式で実施した。

実社会プログラム 金融・経済教室 9月26日（水）



野村ホールディングス株式会社から講師を招き、今後の探究活動に向けて会社研究の視点を学んだ。

榛高タイム 市長出前講座 10月11日（木）



牧之原市長の杉本基久雄氏から「牧之原市のまちづくり」について学んだ。牧之原市の抱えている課題、地域の強み、行政の取組などを知り、地域の認識を深めるよい機会となった。

<5 成果と今後の方向性>

「総合的な学習の時間」（榛高タイム）や希望者による地域リーダー育成プロジェクト等への参加により、生徒には地域の課題を考え、協働して解決に取り組む姿勢が見えはじめています。また、教員は準備・実施・振り返りにおいて、常に修正を加えながら生徒たちの「主体的、対話的で深い学び」が実現されるよう取り組み、外部人材の活用やワークショップ運営の仕方など、ノウハウを蓄積しており、本年度の活動を次年度に生かすことができる形が整いつつある。

10月に開催された外部委員を含めたAFプロジェクト会議の中で、多岐にわたって充実した活動が実践されていること、それらの活動を通じて協議のスキルやコミュニケーション能力が身に付くのではないかと評価を受けた。

さらに教員の指導力向上については、本事業に多くの教員が参画することによって学校全体として指導力の向上を目指していきたい。

<1 テーマ>

ICTを利用した学力向上への取組
(生徒一人一台タブレットを視野に)

<2 取組方法>

- 1 生徒の学力向上
 - (1)自己管理能力の育成
進路ガイダンスの実施とともにクラウドサービスを利用した管理システムを研究
 - (2)主体的学習習慣醸成の環境整備
進路閲覧室のWi-Fi環境の活用、ChromeBookの貸し出しにより主体的学習をサポート
 - (3)進路目標の具体化支援
オープンキャンパスへの参加、大学進学ガイダンス「夢ナビライブ2018」への参加を促進
- 2 教員の指導力向上
 - (1)クラウドサービスを活用した授業の研究
クラウドサービスを活用した授業に係る研修会の参加および校内研修の実施
- 3 高大接続改革
 - (1)大学入学共通テストの研究
国、数、英のみならず地公、理について研究会等へ積極参加して情報を収集
 - (2)英語4技能に応じた授業の研究
ICTを活用し4技能5領域を重視した英語の授業の在り方についての研究を促進
 - (3)静岡大学工学部との新入試研究
パフォーマンステスト等の新しい入試の在り方についての研究に連携協力し進路指導に還元
- 4 成果の検証
家庭学習時間調査の実態と模擬試験の結果を把握
- 5 その他
クラウドサービスを活用した校務の効率化を推進

<3 成果指標と実績>

成果指標	初期値	目標値	実績(評価)
①授業への取組			
2年	25.4%	30.0%	- (-)
1年	29.9%	30.0%	- (-)
①平日学習時間			
2年	1.3時間	1.5時間	- (-)
1年	1.3時間	1.5時間	- (-)
①休日学習時間			
2年	2.0時間	2.5時間	- (-)
1年	2.0時間	2.0時間	- (-)
③授業で力がついた実感			
2年	5.0%	7.5%	- (-)
1年	5.8%	7.5%	- (-)
①国公立大受験者数	217人	220人	- (-)
②静大との連携による生徒参加数	42人	42人	- (-)
②大学進学を目的とした補習への参加生徒数(3年)	159人	160人	256人(A)
③国公立大合格者数	94人	100人	- (-)
①授業でより深く学ぶことがほぼできた生徒	-	70.0%	- (-)
①自ら計画を立て主体的に学習している生徒	-	70.0%	- (-)
②大学合同進学ガイダンス参加生徒数	-	100人	177人(A)
③センター平均全国平均の1.03倍以上の科目	8科目 (14科目中)	10科目	- (-)

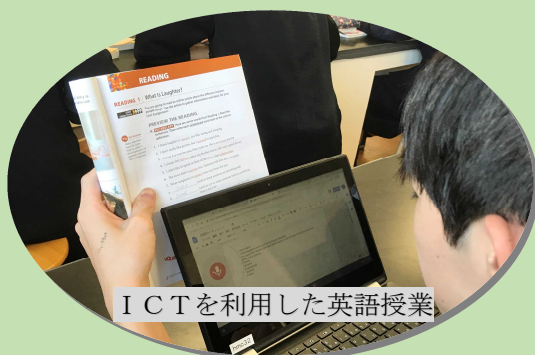
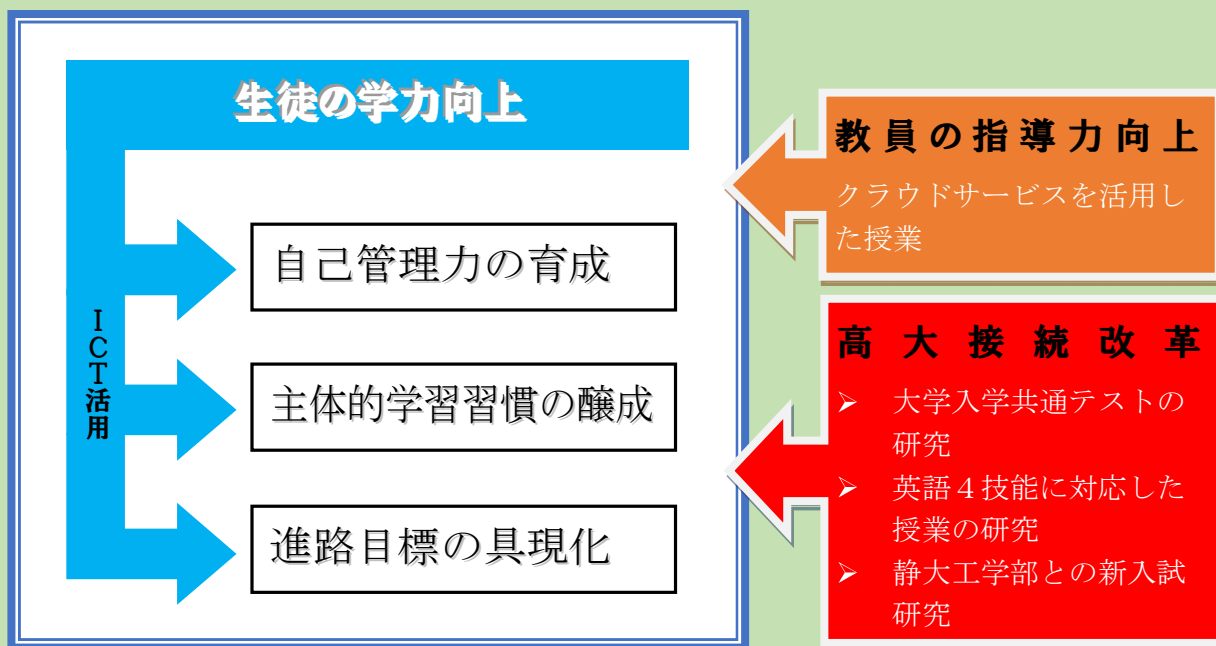
< 4 特徴的な取組 >



夢ナビライブ2018



I C T 校内研修



I C T を利用した英語授業



研究会等参加報告書

< 5 成果と今後の方向性 >

生徒に対して、自己管理能力の育成、主体的学習習慣の醸成、進路目標の具体化の3つの柱を軸に学力向上を図った。取り組んだばかりということで顕著な成果は見られないものの、高いポテンシャルをもつタブレット型ノートパソコン（ChromeBook）等のI C Tをフル活用することで、新たな「学び」のスタイルを提供することが可能となる。とくに、今後外国語教育において柱となる、英語4技能5領域の育成については、I C Tの特性を最大限育成することで、その成果は大いに期待することができる。

<1 テーマ>	<3 成果指標と実績>			
常葉大学、予備校、地域との連携を生かしたキャリア教育の充実と生徒の進路実現のための学力向上を図る。	成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
<2 取組方法>	①授業への取組 2年	26.1%	30%	()
①本校で作成した独自の手帳により、生徒が基本的な生活習慣を確立し、家庭での学習時間等についての指導を継続して行う。	1年	24.9%	30%	()
②Classiの有効活用のための講師招聘を行う。生徒の家庭学習時間の把握や学習に対する意欲の変容を調査する。	①平日学習時間 2年	0.61	1.0	()
③鳴門教育大学での研修教員の実習を核とした学びのポートフォリオの実践により、生徒の目標設定やそのための生徒指導を実施する。	1年	0.80	1.0	()
④常葉大学との連携の中で、「地域を知り、地域とつながること」をテーマに生徒への講義や出前授業を実施する。	①休日学習時間 2年	1.05	1.3	()
⑤防災のための「HUG（避難所運営ゲーム）体験」を実施する。地域との連携の中で防災教育を実践し生徒の探究活動に繋げることにより、地域に貢献できる人材の育成を行う。	1年	1.26	1.5	()
⑥「浜北西高校のキャリア教育」を検討するため「北西プロジェクト」を立ち上げ、地域との連携を推進し、生徒に身に付けさせたい力と目的を明確にすることにより、進路目標と志を育む教育を実践する。	③授業で力がついた実感 2年	5.3%	8%	()
	1年	6.2%	10%	()
	①国公立大学の受験者数	10	20	()
	②外部との連携による探究活動等への参加生徒数	0	20	()
	②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数	445	450	()
	③国公立大学の合格者数	4	8	()
	看護・医療系の合格者数	47	50	()
	英語検定試験準2級の合格者数	9	10	()
	ICT機器を活用した授業を実施した教員数	19	25	()
	予備校等が主催する講習等へ参加した教員数	3	4	()

<4 特徴的な取組>

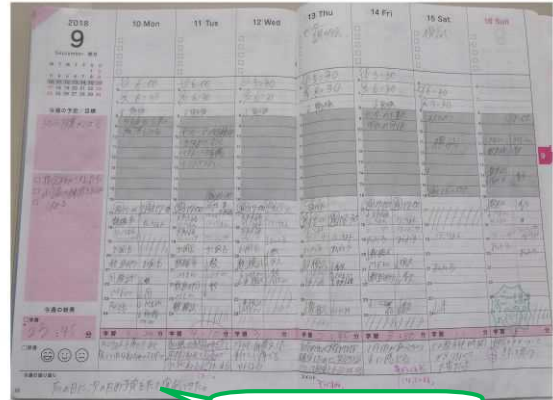


「手帳」による生活習慣の確立指導

- ・ **4点固定**の指導 → 生活習慣指導の実施（6月5日～10日）
「起床」「下校」「学習開始」「就寝」の時間を手帳に記入 → 毎朝担任が確認
Classiを使つての振り返りアンケートの実施
- ・ **先進校視察**（三重県立津西高等学校） → 校内での情報共有

生徒全員が手帳（2018年度版）
を活用
具体的な指導

- ①集会等には手帳を持参
→ その場で書かせる
- ②4点固定の記入
- ③予定と実施の記録
- ④家庭学習時間の記録
- ⑤日々の反省の記入
- ⑥担任による個別指導



担任からコメント

学習環境の整備

- ・ タイマーの導入 → アクティブ型授業の展開



プロジェクター・スクリーン
は教室に常設

全体から見え
るタイマー

時間を意識したグループワークの実践

常葉大学との連携事業

- ・ 1年生総合的な学習の時間「地域を知る」
中津川先生とゼミの学生によるプレゼン



<5 成果と今後の方向性>

- ・ キャリア教育では、キャリア担当を中心とした「北西プロジェクト」を立ち上げた。総合的な学習の時間の中で実施する1つ1つの行事で「生徒に身に付けさせたい力」を明示し、担当する教員の共通理解のもとで計画を立案、実践するという指導を推進することができた。今後は生徒・教員の振り返りにより、PDCAサイクルを機能させ、より効果的なキャリア教育の確立を目指していく。
- ・ Classiによるアンケート調査により、生徒の家庭学習の実態が見える化し、課題の共有を図ることができた。また、本校生徒に対しては、4点固定の働きかけによる意識改革、手帳指導の徹底によるマネジメント力の向上が必要であるという共通理解を進めることができた。今後の継続的な指導体制を確立していきたい。
- ・ 昨年度より進めてきた学習環境整備により、教室のマグネットシート、プロジェクターの活用を進めることができた。今年度は、タイマーを使用することにより、効果的な小テストの実施や時間を管理した中でのグループワークを実践することができている。また、職員室前にホワイトボードを設置し、放課後や定期テスト前に生徒が質問しやすいコーナーを設けた。今後は更なる活用を進めたい。
- ・ 地域との連携の中で防災教育を推進し、HUG（避難所運営ゲーム）体験を実施する予定である。生徒の防災意識を高める中で、一人一人が、より実践的で探究的な学習に進むことができる指導方法について研究を進めたい。